

城郭建築として国宝第1号

名古屋城本丸御殿は、近世城郭御殿の最高傑作として、現在国宝の京都二条城の二の丸御殿と並び、武家風書院造の双壁と評されていました。

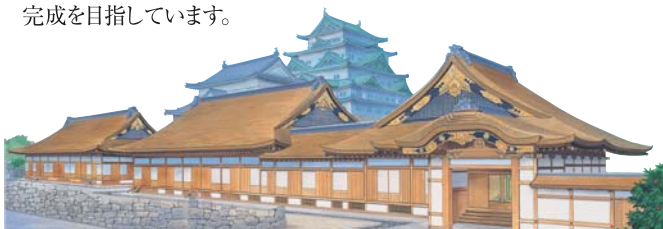
勇壮な天守閣と優美な御殿により、名古屋城は1930年(昭和5)に城郭建築として国宝第1号に指定されましたが、残念ながら1945年(昭和20)空襲により天守閣ともども焼失してしまいました。

史実に忠実な復元が可能

その後天守閣は1959年(昭和34)に再建されましたが、本丸御殿復元は実現していませんでした。しかし、貴重な文献や古写真、実測図、障壁画などが多数残されており、この豊富な史料に基づいて、史実に忠実な復元が可能であり、2009年(平成21)1月に復元工事に着手しました。

平成の市民普請により復元

名古屋市では、皆さまのご支援をいただきながら、「平成の市民普請」として、その復元過程を公開しながら、2018年(平成30)の完成を目指しています。



本丸御殿復元イメージ

名古屋城本丸御殿年表

- 1610年(慶長15) 閏2月、名古屋築城に着手。
8月、天守台石垣完成。年内には普請が完成。
- 1612年(慶長17) 天守閣や諸門、櫓などの作事が完成。
本丸御殿の作事が始まる。
- 1615年(慶長20) 2月、本丸御殿が完成。
- 1616年(元和2) 初代尾張藩主の徳川義直が居住する。
- 1620年(元和6) 2月、義直とその家族が本丸御殿から二の丸御殿に移居。
以後、將軍上洛時の宿舎となる。
- 1634年(寛永11) 3代將軍徳川家光の上洛にあわせ、上洛殿などが完成。



上洛殿一之間(焼失)東北側

障壁画復元模写

～400年前の狩野派芸術がよみがえる～



竹林豹虎図(玄関一之間東側襖絵)

本丸御殿の室内を絢爛豪華に飾っていた障壁画。それらは日本画史上最大の画派「狩野派」の絵師たちにより精魂込めて描かれてきましたが、その多くは戦災を免れ、現在1,047面が国の重要文化財に指定されています。

この障壁画の400年前の鮮やかな色をよみがえらせようと、平成4年より障壁画復元模写作業が進められています。「復元模写」とは、描かれた当時の鮮やかな色彩を再現する手法のことで、原作を忠実に復元するため、当時の絵師たちが用いた技法や素材の分析を重ねるなど繊細な作業が進められています。

この復元模写された障壁画は、現在復元中の本丸御殿内に昔の姿そのままに飾られる予定です。これによって本丸御殿は、建物・障壁画ともに400年前の近世武家文化を体感できる美術館になります。



制作/名古屋城本丸御殿障壁画復元模写制作共同体
(構成:愛知県立芸術大学日本画保存模写研究会及び加藤純子氏)

「名古屋城本丸御殿積立募金」へのご寄付をお願いします。

御殿(ごてん)募金 ◆一口/1千円

柿(こけら) 募金 ◆一口/3千円(中学生以下 一口/1千円)

●本丸御殿の柿板に、ご住所(区市町村名。県外の方は都道府県名。)及びご氏名を記載していただけます。

※柿(こけら)とは、スギ、サワラなどを薄板にし、屋根葺きの材料としたものです。本丸御殿は、当初は書院造本来の柿葺きでした。

匠(たくみ) 募金 ◆一口/1万円

●オリジナルの募金者証をご用意します。

檜(ひのき) 募金 ◆一口/5万円以上

●本丸御殿の芳名板に、ご住所(区市町村名。県外の方は都道府県名。)及びご氏名を記載します。

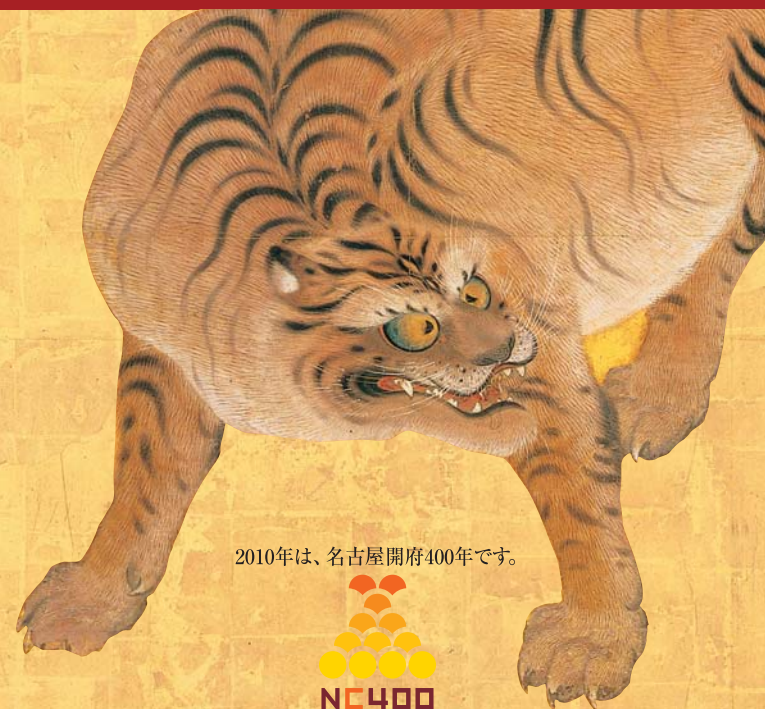
●就職や結婚、周年行事等を記念して檜募金によりご寄附される場合(記念日募金)は、記念証をご用意します。

名古屋市 市民経済局 文化観光部 名古屋城整備室
〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号 Tel.052-972-2426
<http://www.hommaru-palace.city.nagoya.jp>

このリーフレットは再生紙を使用しています。

名古屋がもつと輝く

名古屋城本丸御殿



2010年は、名古屋開府400年です。



NC400
NAGOYA CASTLE 400YS
NAGOYA CULTURE 400YS

竹林豹虎図
(玄関一之間東側襖絵(重要文化財))